

番組屋敷の分布 — 福井城下の武家地の研究 その5 —

伊豆蔵 庫 喜*

The distribution of 'Bangumi' residences of the Fukui castle town — A study on the samurai's premise of the Fukui castle town, part5 —

Kouki Izukura

This report has been considered the distribution of the residence grounds of the 'Bangumi', which was the middle-class samurai in the Fukui clan. As a result of our investigation, they were 621 in number at the end of the Edo age. A lot of these residence grounds existed on the north and the southeast sides around the Fukui castle. The distribution of the residence grounds did not have a clear division by the difference of fief, but the residences of 'Bangumi', more than 300 Koku were large, and existed on the corner in the main street.

1. はじめに

本研究は、幕末における福井城下の武家地について検討するものである。すでに福井藩の職制や禄高を記した『福井藩役々勤務雑誌』¹⁾を用いて、上級と中級武家屋敷の数を町・地域ごとに示し、それらの分布を明らかにした²⁾。さらに、嘉永5年(1852)の『御家中屋敷絵図(上)』³⁾を参考にして、福井藩の高知席(17家)・寄合席(39家)・定坐番外席(13家)の屋敷地や大きさ、建物の様子について報告した⁴⁾。本稿は、武家の中でも中級に位置する番組を取り上げ、彼らの禄高や屋敷地の分布について考察する。

2. 番組について

福井藩の番組は、役番外・書院番・小姓などの大番組と新番・新番格などの新番組に分かれる。禄高は最少が5人扶持、最高が450石で広範囲にわたる。中でも町・寺社奉行や側向頭取、目付などの職に付いていた役番外の鈴木忠太夫家や市村勘右衛門家などは350石で、上級武士に準じた俸禄を受けていた⁵⁾。

また、小役人や御徒を10年勤めれば新番組になること、新番組になって40年勤めれば大番組になることなど在职年数で取立や昇格が定められていた⁶⁾。さらに、席次も大番組に取立てられた年より25年で相身躰末席になり、その後25年で順席につくという規則もあった⁷⁾。ただし、家督相続の際は、先代ならびに先々代の在职年は含まれないこと、役方あるいは格別の勤労者は吟味の上、年数が加味されるなどの例外もあった⁸⁾。

前掲の『福井藩役々勤務雑誌』によれば、天保年間(1830~43)の番組は621家ある⁹⁾。これら621家の屋敷地が所在する町名を禄高と加味しながら整理し、一覧表として巻末に付記した。

* 建設工学科 建築学専攻

3. 幕末における番組の数

ここでは、621家を禄高から4段階に分けて考察することにする。

1) 300 石以上の番組

禄高 300 石以上の番組は 14 家ある。表 1 はこれらを禄高ごとに示したものである。300 石が最も多い 8 例で、次いで 325 石と 350 石がそれぞれ 2 例ある。400 石を越えるのは、450 石の大関桢家と 400 石の山田次郎太夫家の 2 家である(付表参照)。

表 1 300 石以上の番組の数

禄高(石)	300	325	350	400	450	計
屋敷数(家)	8	2	2	1	1	14

表 2 200 石～299 石の番組の数

禄高(石)	200	250	260	計
屋敷数(家)	39	6	1	46

2) 200 石から 299 石までの番組

禄高 200 石～299 石までの番組は 46 家ある。表 2 のように、260 石の 1 例と 250 石の 6 例を除けば、約 85% が 200 石で 39 家みられる。

3) 100 石から 199 石までの番組

100 石～199 石までの番組 259 家のうち、100 石～150 石が 253 例で多く、160 石～190 石は 6 例だけである(表 3 参照)。特に 100 石あるいは 150 石が 246 例で、9 割を越え圧倒的に多い。

表 3 100 石～199 石の番組の数

禄高(石)	100	125	130	150	160	170	175	190	計
屋敷数(家)	162	1	6	84	1	3	1	1	259

4) 99 石以下の番組

99 石以下の番組は、番組全体の半数に近い 297 家確認できる。この内、知行取の占める割合が 90% と多く、扶持取はわずか 10% である¹⁰⁾。表 4 のように、知行取はすべてが 10 石～30 石の中におさまっており、30 石を越えるのは 1 例もみられない。したがって、同じ番組でも 300 石を越える家とはかなりの格差があったことが窺える。

表 4 99 石以下の番組の数

禄高(石)	10	13	14	15	17	18	20	22	23	24	25	28	30	計
屋敷数(家)	1	1	1	39	14	70	63	2	5	1	68	2	2	269

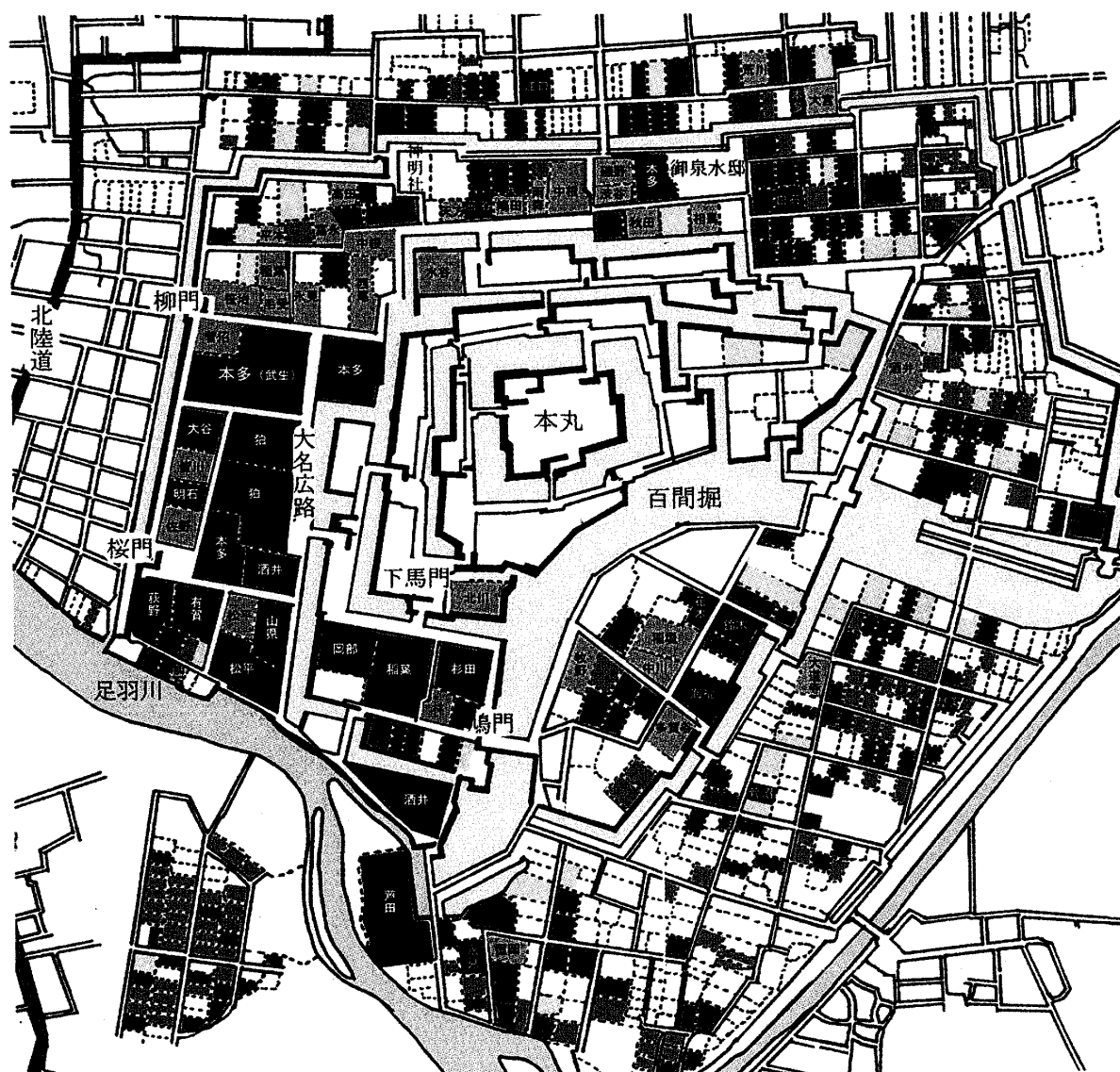
禄高(扶持)	5人	7人	10人	13人	15人	17人	20人	25人	30人	計	合計
屋敷数(家)	7	2	5	1	2	6	2	2	1	28	297

4. 屋敷地の分布

幕末の番組および高知席・寄合席・定坐番外席の屋敷地を示したものが図 1¹¹⁾、禄高別の番組の数を区域ごとにまとめたものが表 5 である。すでに指摘したように、幕末の福井城下の武家地は、町や区域ごとに A～G の 7 区に分けられる¹²⁾。なお、先に述べたように禄高別の 4 区分は色分けして示している。

表5 区域別の番組の屋敷数

	主な町名		200～ 299石		99石 以下	計
A	鳩門内・木蔵町・三ノ丸など	2	4	8	4	18
B	神明前・天王町・鷹匠町	4	10	42	31	87
C	永平寺町・観音町・竹ヶ鼻町	1	6	30	27	64
D	江戸町・御使番町・与力町	2	8	41	66	117
E	中ノ馬場・外中ノ馬場	3	3	18	7	31
F	新屋敷・城ノ橋・東光寺町	2	14	102	107	225
G	毛矢町・立矢町・石場町	0	1	17	47	65
その他	浜町・御舟町・夜廻り町	0	1	1	12	14
計		14	47	259	301	621



*1:色分けは■が300石以上、■が200～299石、■が100石～199石、■が99石以下である。

*2:図中の白字は高知席、青色は寄合席、黄色は定坐番外席の屋敷である。

*3:白めきの屋敷地は番組のものであるが、『福井御城下絵図』に記された氏名と一致しないため、色付けしていない。

図1 番組屋敷の位置

1) A区

本丸の西側の大名町付近および南・東三ノ丸一帯のA区には、18筆の番組の屋敷がある。この区の大部分は、狛家など高知席と寄合席の屋敷地が占めているが、番組では南三ノ丸の鳩門前に千本藤左衛門家や杉田五太夫家など7例、足羽川沿いの木蔵町に山崎七郎右衛門家や高橋十郎兵衛家など6例ある。この他、東三ノ丸に長谷部甚平家や山本源左衛門家、御鷹部屋に才川又兵衛家など5例みられる。いずれも区域の端部の堀際や川沿いに位置している。

2) B区

本丸の北側のB区には、御泉水町や天王町、鷹匠町などに87筆ある。B区もやはり寄合席の屋敷地が集中しているが、津田三六家など番組の多くは、外堀沿いに屋敷を構えている。しかし、神明前の鈴木忠太夫家や土屋十郎右衛門家、天王町の井上半太夫家などは表通りに面した角地に大きな敷地をもっている例もある。

3) C区とD区

C区は城下東端部の天草町や永平寺町などに64筆、D区は武家地の北端、町人地と接する江戸町や与力町などに117筆ある。両区の大部分は199石以下の番組の屋敷地で、200石を越える番組の屋敷地が一部みられる。

4) E区

E区は東南部の百間堀が湾曲した一画で、中ノ馬場と呼ばれていた。E区もB区同様、寄合席と定坐番外席の屋敷地の多い区域であるが、番組の屋敷地も31筆点在している。

5) F区

城下の東南隅のF区は、新屋敷町や城ノ橋町などを含んだ広大な区画で、番組全体の約36%にあたる225筆の屋敷地がある。新屋敷は享保6年(1721)以降、松岡から移った家臣たちの屋敷地が設けられたところで¹³⁾、199石以下の番組が多くみられる。

6) G区

G区は足羽川の南岸に広がる武家地で、番組の屋敷地は毛矢町などに65筆みられる。毛矢町一帯は藩創設当初より武家地であったが、貞享の大法¹⁴⁾後に一旦取り払われていた。その後、新屋敷同様、松岡からの移住によって復活した武家地である。この区の番組は200石の岩上梶太夫家以外、すべて199石以下のものである。

7) その他

この他、浜町や御舟町、三ッ橋町など郭外にも199石以下の番組の屋敷地が14筆確認できる。

以上のことから、次のような指摘ができる。赤色で示した300石以上の屋敷地をみると、既報の高知席や寄合席と違って、城下の北側および東南側に点在している。また、黄色と緑色、青色で示した299石以下の屋敷地は城下周辺部に多くみられる。

5. おわりに

以上、幕末における番組の屋敷地の分布についてみてきた。その結果、番組の屋敷地は城下の北側や東南側に多くみられること、禄高の違いによる明確な区分はなったことなどが指摘できた。ただし、300 石を越える番組の一部の屋敷地は、表通りの角地に大きな敷地をもっている傾向がみられた。

【註】

- 1) 鈴木準道著『福井藩役々勤務雑誌』松平文庫 松平宗紀氏蔵 福井県立図書館保管
- 2) 拙稿「武家屋敷の分布-福井城下の武家地の研究 1-」日本建築学会北陸支部研究報告集 第45号(2002.6)
- 3) 『御家中屋敷絵図(上)』嘉永5年(1852) 松平文庫 松平宗紀氏蔵 福井県立図書館保管
- 4) 拙稿「高知席の屋敷地-福井城下の武家地の研究 2-」日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2 (2002.8)、「寄合席の屋敷地-福井城下の武家地の研究 3-」同北陸支部研究報告集 第46号(2003.7)、「定坐番外席の屋敷地-福井城下の武家地の研究 4-」日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2 (2003.9)
- 5) 舟沢茂樹『福井城下ものがたり』福井PRセンター(1977) p131
- 6) 鈴木準道著 舟沢茂樹校訂『福井藩史事典』歴史図書社(1977) のp127の士分御取立規則の項に、「一、小役人并御徒より新番組並に御取立の年より十年相勤むれば新番組へ入れらる。」「一、新番組へ入れられ四十年勤むれば大御番組に入れられ都合五十年。(後略)」とある。この『福井藩史事典』は、註1の『福井藩役々勤務雑誌』の校訂本である。
- 7) 註6と同じ、p127に「一、大番組へ御取立の年より二十五年勤むれば相身躰末席」、「一、相身躰末席より二十五年勤むれば順席、始より大番士へ入る者も同断、都合五十年。(後略)」とある。
- 8) 註6と同じ、p127に「(前略)但し、祖父より二代目・三代目并現身に限らず年数次第、戈役に付て順席に成らざる面々は只今迄之通り、或いは現身にても訳有^レ之格別の勤方ある者は右年数に限らず其節の吟味次第御沙汰可^レ有^レ之事。又何も年数相満候共其身の勤勞により其節御吟味次第可^レ有^二御沙汰^一事」とある。
- 9) 番組621家の中には、新番・新番格も含まれている。
- 10) 註5掲載の『福井城下ものがたり』によれば、知行取は領地を与えられ、そこからの米を禄としていた。扶持取は藩の蔵入地の米を、一日玄米五合の宛で支給されていた。この他、扶持取と同じ藩の蔵米を支給されていた切米取もいた。
- 11) 図1の屋敷地の氏名は、文化3年(1806)『福井御城下絵図』ならびに慶応年間(1865~67)『福井御城下絵図』(両絵図とも、松平文庫 松平宗紀氏蔵 福井県立図書館保管)を参考にしている。
- 12) 屋敷地の分布や区域については、註2掲載の「武家屋敷の分布-福井城下の武家地の研究 1-」で詳しく報告している。
- 13) 享保6年(1721)12月、福井藩7代藩主松平吉邦が死去すると、兄の松岡藩主昌平が宗昌と改名して福井藩を相続し9代福井藩主となった。その結果、福井藩は松岡藩5万石を併合して30万石となり、松岡藩士も昌平とともに福井城下へ移り住んだ。
- 14) 貞享3年(1686)に福井藩は47万5000石から、25万石の石高が半減された。その際、1000人余の武士が禄を失い、城東一帯や足羽川南岸の毛矢町など武家屋敷地の多くは空き地となった。

付表 番組の屋敷地一覧（『福井藩役々勤務雑誌』より）

区画	町名	氏名			屋敷数 町別 区画別
		300石以上	299石～200石	199石～100石	
A	堀ノ門内	松原権左衛門(300石)、千本藤左衛門(300石)	杉田五太夫(250石)		99石以下
	漆御門内			長谷川仁兵衛(170石)、大野三左衛門(150石)、内田作左衛門(100石)、園枝六太夫(100石)	3
	木蔵町		山崎七郎右衛門(200石)	高橋十郎兵衛(150石)、森田伝右衛門(150石)、鈴木百助(100石)	4
	三ノ丸		度谷部甚平(200石)、山本源左衛門(200石)	石原基十郎(150石)	6
	三ノ丸 明道館預り				3
	御鷹部屋			吉田勝藏(10人扶持)	1
	文庫町		横田作太夫(200石)	才川又兵衛(15石3人)	1
	土居之内		海部猪兵衛(200石)、中根新左衛門(250石)	長谷川兵衛(20石4人)、坂上彦八郎(25石5人)	4
	神明前	鈴木忠太夫(350石)、土屋十郎右衛門(300石)、榊原惣太郎(300石)	佐々木小左衛門(200石)	津田三六(150石)	9
	御泉水町		篠野左十郎(200石)、木谷半平(200石)、加藤良右衛門(200石)、	加藤又右衛門(150石)、加藤所左衛門(150石)、加藤伝内(150石)、高松彦藏(100石)、高村勝兵衛(100石)、中村仲(150石)	5
B	元脚泉水町			今立五郎太夫(150石)	9
	不動前		榊原辰兵衛(200石)		2
	天王町	井上半太夫(325石)		服部三郎右衛門(150石)、坂島四郎右衛門(100石)、本多十郎兵衛(175石)、大井長十郎(150石)、川地又兵衛(100石)、中村八太夫(150石)、松原四郎兵衛(150石)、前渡忠兵衛(150石)、松原孫士郎(100石)、榊原幸八(100石)、周防辰兵衛(100石)、敦木【敦賀山】惣左衛門(100石)	3
	八軒町		小栗五郎太夫(200石)、津田弥太六(200石)	大岡彦兵衛(150石)、岡部平平(100石)、駒淵三郎兵衛(150石)高橋幸吉(100石)、津田四郎右衛門(100石)、松田彦四郎(100石)、近藤次右衛門(100石)、跡部幸八郎(100石)、菅川藤内(150石)	16
	鷹匠町			龍田奥右衛門(100石)、塚谷源右衛門(100石)、岸五郎右衛門(100石)、岸新六(100石)、三浦生左衛門(100石)	11
	天草町		磯兵右衛門(200石)、坂田七左衛門(200石)	市橋源之丞(100石)、磯野仲右衛門(100石)、八田金右衛門(100石)、高田芳左(100石)、柳下勘助(100石)、松井三郎右衛門(150石)、日比彦之丞(100石)、毛利六郎右衛門(100石)	28
				岩佐平太夫(18石3人)、伊藤彦兵衛(15石3人)、林殿次郎(20石4人)、堀武太夫(20石4人)、龜山勝次郎(18石3人)、奥村八十吉(20石3人)、大野藤太夫(18石3人)、金井金次郎(25石5人)、加藤新兵衛(20石4人)、川戸又三郎(18石3人)、竹嶋仙右衛門(15石3人)、堤武右衛門(20石4人)、中田久左衛門(18石3人)、中村与三郎(18石3人)、中村久吉(18石3人)、中村惣右衛門(20石5人)、野村勝五郎(18石3人)、山田金五兵衛(20石4人)、山田本右衛門(18石3人)、木村藤五右衛門(20石5人)、岸理兵衛(20石4人)、岸惣右衛門(25石3人)、三崎市郎太夫(20石3人)	20
				林与太夫(20石4人)、岸五郎左衛門(18石3人)、西村藤四郎(18石3人)、波々伯部一右衛門(25石5人)、磯山藤八郎(25石5人)、成瀬平右衛門(25石5人)、安本新助(25石5人)、藤田善兵衛(25石5人)、木村藤右衛門(25石5人)、広部甚左衛門(15石3人)	
				岩佐平太夫(18石3人)、伊藤彦兵衛(15石3人)、林殿次郎(20石4人)、堀武太夫(20石4人)、龜山勝次郎(18石3人)、奥村八十吉(20石3人)、大野藤太夫(18石3人)、金井金次郎(25石5人)、加藤新兵衛(20石4人)、川戸又三郎(18石3人)、竹嶋仙右衛門(15石3人)、堤武右衛門(20石4人)、中田久左衛門(18石3人)、中村与三郎(18石3人)、中村久吉(18石3人)、中村惣右衛門(20石5人)、野村勝五郎(18石3人)、山田金五兵衛(20石4人)、山田本右衛門(18石3人)、木村藤五右衛門(20石5人)、岸理兵衛(20石4人)、岸惣右衛門(25石3人)、三崎市郎太夫(20石3人)	
				林与太夫(20石4人)、岸五郎左衛門(18石3人)、西村藤四郎(18石3人)、波々伯部一右衛門(25石5人)、磯山藤八郎(25石5人)、成瀬平右衛門(25石5人)、安本新助(25石5人)、藤田善兵衛(25石5人)、木村藤右衛門(25石5人)、広部甚左衛門(15石3人)	

区画	町名	氏名			屋敷数	
		300石以上	299石～200石	199石～100石	99石以下	町別 区画別
C	永平寺町		今村小一郎 (200石)	岡野千久馬 (100石)、原田十兵衛 (100石)、西村仙右衛門 (100石)、勝木十蔵 (150石)、相谷彦太夫 (100石)、上坂五郎助 (100石)、山田藤内 (100石)、皆川平右衛門 (150石)、横口彌右衛門 (150石)、下川三右衛門 (100石)、鈴木甚十郎 (150石)	伊藤利藤太 (17人扶持)、小川茂兵衛 (20石3人)、大内彦十郎 (20石3人)、勝木權太夫 (25石5人)	16
	割場			堀江九郎右衛門 (150石)、柳屋縫之助 (150石)、大井田喜内 (150石)		3
	地蔵町				牧野嘉左衛門 (20石5人)、笹川庄左衛門 (20石3人)、青木助六 (17石3人)	3
	郎御町				川崎金平 (10人扶持)、野村四郎右衛門 (10人扶持)	2
	観音町			堀権之助 (200石)、太田三郎兵衛 (200石)、松坂次郎 (100石)、松坂次郎 (100石)、綾尾平八 (100石)	田中藤四郎 (25石3人)、荒川三郎太夫 (25石5人)	9
	竹ヶ鼻町	大間草 (450石)		田辺岡吉 (150石)		2
	滝ヶ鼻			高間又四郎 (100石)、佐久士新五右衛門 (150石)	西村金助 (17石3人)、勝田与右衛門 (18石3人)、山田五右衛門 (15石3人)	5
	鶴匠町				森川五郎 (15石2人)	1
	六軒町		松巻藤四郎 (200石)		吉田半左衛門 (20石4人)、田辺丈右衛門 (17石3人)	3
	江戸町			武田藤三郎 (100石)		1
D	江戸上町	尾崎仁平 (300石)、高田孫左衛門 (300石)	溝田友右衛門 (200石)、浅井八百里 (200石)	岩崎藤左衛門 (150石)、生田十右衛門 (150石)、今村伝兵衛 (150石)、堀武左衛門 (100石)、堀田三太夫 (150石)、川村藤十郎 (150石)、田辺五太夫 (150石)、高村四郎右衛門 (150石)、高島基五左衛門 (100石)、柄田与次内 (100石)、上坂平八郎 (100石)、三岡助右衛門 (100石)	川地權内 (25石5人)、吉田文太郎 (15石3人)、嶋崎伝太夫 (18石3人)	19
	江戸中町		八木次郎助 (200石)	井戸藤右衛門 (100石)、猪子六左衛門 (100石)、落谷丈右衛門 (100石)、川合五右衛門 (130石)、堀川半兵衛 (130石)、川村五平 (100石)、中野儀右衛門 (100石)、矢野權兵衛 (100石)、浅見土郎右衛門 (150石)、浅見仲右衛門 (150石)、浅見龍之助 (150石)、菅田次郎兵衛 (150石)、沢木又八 (100石)、皆川辰五郎 (100石)、宮原甚左衛門 (100石)	萩原又市 (20石3人)、田川清助 (25石5人)、竹沢太兵衛 (20石3人)、竹内半蔵 (20石3人)、野田善平太 (25石5人)、近藤十兵衛 (18石3人)、古石清三郎 (20石3人)、寺木十太夫 (20石3人)、安西平八 (20石4人)	25
	江戸下町		山口作之助 (200石)	荻野初右衛門 (100石)、金子十郎右衛門 (100石)、山本彦助 (100石)、柳村久右衛門 (150石)、小本六郎兵衛 (100石)	長谷川喜三郎 (20石2人)、能瀬角太夫 (15石3人)、山田清兵衛 (20石4人)、松原次郎左衛門 (23石5人)、有賀六郎右衛門 (25人扶持)	11
	御使番町		西尾源太左衛門 (250石)、山品八十郎 (200石)、小林勘兵衛 (200石)	石川平八 (100石)、原平左衛門 (150石)、青木十太夫 (150石)	井上茂左衛門 (23石3人)、堀庄兵衛 (20石3人)	8
	子安町				本多武兵衛 (15人扶持)	1
	大工町				石井甚平 (20石3人)、渡辺良助 (15石3人)、久保市郎右衛門 (15石3人)、寺木六蔵 (■)、嶋田九郎左衛門 (18石3人)	5
	田原町				川合藤左衛門 (5人扶持)、藤田甚左衛門 (17石3人)	2
	清源寺町				白崎庄右衛門 (18石3人)	1
	祝町				加藤佐右衛門 (18石3人)	1
	千日町		伊藤清八郎			1

区画	町名	氏名			屋敷数
		300石以上	299石～200石	199石～100石	
D	磯町			大谷源吉(15石3人)	1
	谷町			坂井安太夫(15石3人)	1
	上与力町			多部三左衛門(25石5人)、藤井久左衛門(18石3人)、水嶋十太夫(15石3人)、岡田太夫(20石6斗5升5人)	5
	与力町			今川伊太夫(15石3人)、井上勘右衛門(17石3人)、堀乙三郎(20石4人)、小野庄助(20石3人)、大徳金兵衛(18石3人)、勝木三右衛門(25石5人)、加納百之助(18石3人)、夏平之助(13石3人)、高松惣右衛門(7人扶持)、宇良 左衛門(18石3人)、松井市兵衛(18石2人)、新木丹藏(20石5人)、鈴木作太夫(18石3人)、菅沼作平(18石3人)	17
	下与力町			藤嶋安太夫(23石5人)	1
	三上町			土屋市左衛門(15石3人)、野村比右衛門(15石3人)	3
	東三上町			末松寛兵衛(18石3人)	1
	松本横町			古市八兵衛(15石3人)	1
	上油町			渡辺第右衛門(18石3人)、津田栄五郎(圖)、桑嶋与兵衛(20石3人)、安部又三郎(5人扶持)、佐々木喜右衛門(17石3人)、水野新助(15石3人)	6
	油町			平瀬庄三郎(15石3人)	1
E	下油町			竹沢半藏(20石3人)、竹下丈太夫(15石3人)、野村順右衛門(18石3人)、福嶋忠兵衛(25石5人)、喜田嶋孫太夫(25石3人)	5
	中ノ馬場	山田次郎太夫(400石)、小川治兵衛(325石)、宮北權六(300石)	雨森左四郎(200石)	出瀬伝之丞(150石)、井原丞助(150石)、稲葉三四郎(130石)、生駒五左衛門(100石)、伊藤三太夫(100石)、林作助(100石)、丹羽盛五郎(100石)、小栗次右衛門(150石)、高村辰作(150石)、野村松太夫(100石)、藤田第三郎(100石)、上月久左衛門(150石)、青木与右衛門(100石)、三寺与右衛門[後三長野](150石)、嶋川源右衛門(100石)、平岡源藏(100石)	26
	外中ノ馬場		中川平太左衛門(250石)、山田勝兵衛(200石)	川崎三郎助(100石)	3
	松原前中の馬場			中山藤右衛門(100石)	1
	松原前			松原伝次郎(20石5人)	1
				市橋三左衛門(20石4人)、伊藤安右衛門(7人扶持)、服部弥右衛門(18石3人)、原田外吉(18石3人)、戸枝市郎兵衛(20石3人)、大久保元作(20石3人)、岡田戸右衛門(18石3人)、川崎次兵衛(25石5人)、片山順右衛門(17石3人)、能■又右衛門(5人扶持)、竹沢藤兵衛(15石3人)、津田藤左衛門(25石5人)、野坂専助(20石4人)、久津見九右衛門(20人扶持)、矢嶋七郎右衛門(25石3人)、芦田十右衛門(25石5人)、瀬美助左衛門(20石5人)、木内甚平(20石5人)、平井作右衛門(25石3人)	34
F	新屋敷(片側町)			渡々伯部善三郎(100石)	3
	新屋敷(白山堂町)			武曾權太夫(100石)	1

区画	町名	氏名			屋敷数	
		300石以上	299石~200石	199石~100石	99石以下	町別 区画別
F	新屋敷 (白山・雲南)		片山平七 (250石)	川合八郎右衛門 (100石)、奈良助右衛門 (150石)、中村政右衛門 (100石)	穂垣八郎 (20石3人)	1
	新屋敷 (堀端)		堀文左衛門 (200石)、堀七太夫 (260石)、上月八郎左衛門 (200石)	渡々伯郎九郎兵衛 (150石)、渡辺左右衛門 (150石)、河津孫十郎 (170石)、吉岡孫太夫 (150石)、堀井吉十郎 (150石)、堀井三郎右衛門 (100石)、武田喜内 (100石)、武田元作 (100石)、村田孫右衛門 (100石)、宇佐美善平次 (130石)、岡平太夫 (100石)	土屋市兵衛 (25石5人)、前田新四郎 (30人扶持)、牧野左治兵衛 (25石3人)、松山理三郎 (18石3人)、平瀬兵衛 (15石3人)、東弥次郎 (5人扶持)	4
	新屋敷 一番町			岡田喜右衛門 (100石)、門野太右衛門 (100石)、川路三郎助 (100石)、吉田伊兵衛 (100石)、中村祐藏 (100石)、中村久藏 (100石)、野崎小兵衛 (100石)、堀田八右衛門 (100石)、一柳獻助 (100石)	堀又七 (18石3人)、小川六太夫 (30石5人)、岡彦右衛門 (18石3人)、米岡佐左衛門 (17人扶持)、田辺義右衛門 (25石5人)、高橋市太夫 (25石5人)、竹田五太夫 (25石5人)、中村半太夫 (25石5人)、永田彦三郎 (13人扶持)、岡分次郎太夫 (25石5人)、跡部又藏 (25石5人)	20
	新屋敷 二番町			飯沼源左衛門 (190石)、井原源兵衛 (150石)、岩村他三郎 (100石)、林義十郎 (150石)、西尾五右衛門 (100石)、東郷平太夫 (100石)、大谷仲右衛門 (150石)、大河原助右衛門 (150石)、大久保太助太夫 (100石)、岡田弥一郎 (100石)、加藤提右衛門 (100石)、大藤治兵衛 (150石)、村田竜之進 (150石)、寺沢藤左衛門 (100石)、雨森基四郎 (150石)、沢木次郎太夫 (100石)	堀又七 (18石3人)、小川六太夫 (30石5人)、岡彦右衛門 (18石3人)、米岡佐左衛門 (17人扶持)、田辺義右衛門 (25石5人)、高橋市太夫 (25石5人)、竹田五太夫 (25石5人)、中村半太夫 (25石5人)、永田彦三郎 (13人扶持)、岡分次郎太夫 (25石5人)、跡部又藏 (25石5人)	20
	城ノ橋		加賀九郎右衛門 (200石)、彦坂又兵衛 (200石)		井上定右衛門 (20石3人)、堀孫四郎 (25石5人)、大野也三郎 (14石3人)、高嶋仁右衛門 (15石3人)、有沢助左衛門 (25石5人)、佐倉石内 (20人扶持)、岸田善右衛門 (25石3人)、宮崎源次郎 (25石5人)、水野六郎右衛門 (25石5人)、鈴木藤吉 (25石5人)	28
	城ノ橋横町				山田嘉兵衛 (18石3人)	1
	東光寺町			長谷川武右衛門 (130石)、大谷第八 (100石)、岡井仁右衛門 (100石)、平郷宮茂左衛門 (100石)、荒川奈兵衛 (150石)、味岡基左衛門 (150石)、嶋津十太夫 (100石)、鈴木拾五郎 (150石)、嶋長右衛門 (150石)	石沢仲右衛門 (15石4人)、原田甚五左衛門 (25石4人)、本多平五郎 (17人扶持)、大久保源兵衛 (18石3人)、高田弥一郎 (25石5人)、高松名右衛門 (18石3人)、竹沢齊吉 (18石3人)、高木藤左衛門 (25石5人)、多田彦左衛門 (18石3人)、土居五郎八 (25石5人)、永井輝太郎 (18石3人)、堀井五兵衛 (25石5人)、久保又兵衛 (15石3人)、山田多一郎 (20石4人)、山口半左衛門 (17石3人)、堀並左次右衛門 (20石3人)、坂井又三郎 (17人扶持)、坂本平兵衛 (20石3人)、久野幸右衛門 (25石3人)、森沢五郎左衛門 (15石3人)、瀧尾権八 (20石3人)	30
	東光寺町 (蔵)			岡平右衛門 (150石)、香西幸左衛門 (100石)	丹羽十左衛門 (20石4人)、	3
	小道具町	市村勘右衛門 (350石)	下山清左衛門 (200石)、望月八郎右衛門 (200石)	橋左中太 (100石)、吉田五左衛門 (100石)、高江友右衛門 (100石)、高島市郎右衛門 (100石)、国沢助右衛門 (100石)、山本清右衛門 (100石)、星杉新左衛門 (170石)、権田権太夫 (150石)、渋谷与五左衛門 (100石)、樋口嘉左衛門 (150石)、久野忠右衛門 (100石)、樋口安助 (100石)、須崎三郎右衛門 (100石)	井上治太夫 (17人扶持)、西脇林左衛門 (20石5人)、吉樹源藏 (20石4人)、米橋庄右衛門 (25石5人)、久連松此兵衛 (5人扶持)、山路長兵衛 (18石3人)、坂田左古右衛門 (25石5人)、佐々木源右衛門 (15石3人)、久野長右衛門 (20石3人)	25
	一番町			生駒次五太夫 (100石)、小栗要人 (150石)、小嶋逸八 (100石)、加藤茂右衛門 (150石)、武部作太夫 (100石)、長崎藤四郎 (100石)	伊黒源五右衛門 (25人扶持)、大谷武兵衛 (18石3人)、堀田右中太 (5人扶持2人定)、勝山新左衛門 (25石5人)、川村五右衛門 (18石3人)、横山小作 (18石3人)、南助源兵衛 (20石3人)、中山太郎左衛門 (20石3人)、堀嶋孫作 (25石5人)、小木三郎兵衛 (18石3人)、秋田左太夫 (20石5人)、水野虎之助 (18石3人)	18
	一番町 (袋小路)				鈴木市右衛門 (17人扶持)	1
	新屋敷 三番町			堀勘右衛門 (150石)、岡谷弥左衛門 (100石)、金子六郎右衛門 (100石)、高屋源兵衛 (100石)、高屋伊喜右衛門 (100石)、藤部藤左衛門 (100石)、久野駒吉 (100石)	渡沢元右衛門 (18石3人)、中野平太郎 (20石3人)、板井權之丞 (17石3人)、三沢勘左衛門 (15人扶持)	11

区画	町名	氏名			屋敷数	
		300石以上	299石～200石	199石～100石	99石以下	町別 区画別
F	新屋敷 四番町		堀江十太夫(200石)、坂野丹後(200石)、比企六郎兵衛(200石)	井上弥一郎(100石)、本多門左衛門(150石)、小栗仁兵衛(100石)、加藤武右衛門(150石)、前庭利右衛門(150石)、桜井庄九郎(150石)、坂部多三右衛門(100石)	岡嶋清之助(15石3人)、土田源助(18石3人)、安原作右衛門(17石3人)、安藤吉右衛門(15石3人)、佐野内平右衛門(23石3人)、湯股(杉坂坂)弥三右衛門(18石3人)	16
	新屋敷 (東通)				安川幸助(18石3人)	1
	新屋敷 (中通)				加藤弥右衛門(25石5人)	1
	新屋敷 (西通)			中村庄兵衛(100石)		1
	桜ノ馬場				松尾伝藏(18石3人)	1
	新屋敷 五番町		相沢八郎右衛門(200石)	加藤又一郎(100石)、久世八左衛門(150石)、近藤左太夫(100石)、明石甚左衛門(100石)		5
	舟橋預り			四王又兵衛(100石)		1
	立矢				若藤才太夫(15石3人)、松永秀太郎(15石3人)	2
	下立矢				林半兵衛(18石3人)	1
	立矢樽井町				大平孫作(18石3人)	1
G	石場				柏谷清次郎(10人扶持)	1
	石場寺町				青木丈太郎(18石3人)	1
	花堂				佐々木衛七(■)	1
	毛屋(矢)町		岩上親太夫(200石)	伊藤助十郎(100石)、今立六郎右衛門(100石)、新橋助左衛門(100石)、富田弥六郎(150石)、岡嶋鉄之助(100石)、河合弥三兵衛(125石)、成瀬惣右衛門(100石)、中山栄吉(100石)、山形三五右衛門(100石)、酒井金山野十兵衛(100石)、松尾源左衛門(100石)、水野藤兵衛(100石)、三田次郎太夫(100石)、茂呂久左衛門(150石)	市橋又太夫(25石5人)、若佐次五太夫(17石3人)、藤尾惣太夫(17石4人)、渡川小伝太(15石3人)、西村金兵衛(20石4人)、星野鐵之助(15石4人)、徳山茂左衛門(18石3人)、戸田七兵衛(18石3人)、岡嶋左太夫(24石4人)、大河原作右衛門(18石3人)、吉貞鉄五郎(20石4人)、吉田伝左衛門(15石3人)、滝部右衛門(25石5人)、高階助太夫(25石5人)、高久智太夫(25石5人)、高橋惣平(18石3人)、多田源七(18石3人)、竹内嘉藏(22石3人)、竹内忠右衛門(30石3人)、田口惣兵衛(18石3人)、永田喜四郎(25石)、内藤周助(18石3人)、中村久之助(18石3人)、村田十左衛門(25石5人)、上坂利屋平太(25石5人)、内田唯作(25石5人)、栗田市兵衛(25石5人)、久津見与三郎(23石3人)、山田弥三右衛門(18石3人)、松沢平太左衛門(20石5人)、松山専太夫(20石5人)、牧山運平(15石3人)、青木忠右衛門(25石5人)、屋治丈左衛門(18石3人)、雨森彦三(18石3人)、沢田助左衛門(25石5人)、沢田三郎(17石3人)、木内与之助(20石3人)、三上孫三郎(25石5人)、本儀彌作(20石4人)	65
						57
その他	浜町				伊藤孫之丞(18石3人)、高野惣左衛門(10人扶持)	2
	御舟町				伴圭左衛門(■)、大越猪右衛門(22石5人)、中沢七兵衛(25石4人)	3
	夜廻り町				市村惣右衛門(18石3人)、松村久右衛門(18石3人)	2
	三ツ橋				高木■三郎(25石5人)	1
	河南小路				関勇右衛門(18石3人)	1
	御袋小路			梁田八十郎(150石)		1
	お鍋小路		秋田三五五左衛門(200石)			1
合計	その他				渡辺藤太夫(10石3人)、野坂儀助(15石3人)、水野文蔵(5人扶持)	3
		14	47	259	301	621

(平成15年11月18日受理)